

平成27度宮城県議会
地方創生調査特別委員会 広島大学視察

グループ 1

宮城県議会議員(地方創生調査特別委員会)
広島大学連携市町、広島大学生
ワークショップ議事録

地方創生において、大学に何を期待するか
— 農水産業と農山漁村の場合 —

27年5月27日(水)13:15～ 広島大学生物生産学部第1会議室

平成27度宮城県議会 地方創生調査特別委員会 広島大学視察 出席者 名簿

取扱注意

区	分	職 名	氏 名	備 考
安 芸 太 田 町	地域づくり課	課 長	栗 栖 一 正 (くるす かずまさ)	
	地域づくり課	主 査	矢 立 純 (やたて じゆん)	
	地域おこし協力隊	地域おこし協力隊	渡 辺 良 平 (わたなべ りょうへい)	
	地域おこし協力隊	博士課程後期	大 坪 史 人 (おおつぼ ふみと)	
大 崎 上 島 町	産業観光課	課 長	森 下 隆 典 (もりした たかのり)	
世 羅 町	産業振興課	主 査	和 泉 美 智 子 (いずみ みちこ)	
中 国 新 聞	東広島総局	記 者	新 本 恭 子 (しんもと きょうこ)	
株 式 会 社 サ タ ケ	経 営 本 部	秘書室長兼 新規事業推進 室長 ・博士課程後期 中国営業推進 課長	佐 々 木 智 (ささき さとし)	
	ア ジ ア 事 業 部	・博士課程前期	松 本 吉 人 (まつもと よしと)	
宮 城 県 議 会 地 方 創 生 調 査 特 別 委 員 会		委 員 長	長 谷 川 敦 (はせがわ あつし)	
		副 委 員 長	堀 内 周 光 (ほりうち のりみつ)	
		委 員	伊 藤 和 博 (いとう かずひろ)	
		委 員	す だ う 哲 (すどう さとし)	
		委 員	只 野 九 十 九 (ただの つくも)	
		委 員	池 田 憲 彦 (いけだ のりひこ)	
		委 員	相 沢 光 哉 (あいざわ みつや)	
		委員(職務代 行 者)	今 野 隆 吉 (こんの たかよし)	
宮 城 県	震 災 復 興 ・ 企 画 部	次 長	高 橋 彰 (たかはし あきら)	
	議 会 事 務 局	書記(政務調 査 課)	久 保 美 幸 (くぼ みゆき)	
		書記(議 事 課)	大 友 幸 二 (おおとも こうじ)	

区	分	職 名	氏 名	備 考
広 島 大 学	大学院生物圏 科学研究科	研 究 科 長	植 松 一 真 (うえまつ かずまさ)	
		研究科長補佐 教 授	河 合 幸 一 郎 (かわい こういちろう)	
		教 授	山 尾 政 博 (やまお まさひろ)	
		准 教 授	細 野 賢 治 (ほその けんじ)	
		特 任 助 教	天 野 通 子 (あまの みちこ)	
		学 術 社 会 産 学 連 携 室	副 理 事	石 川 幸 秀 (いしかわ ゆきひで)
	大学院生物圏 科学研究科	支 援 室 長	善 村 浩 之 (よしむら ひろゆき)	
		支援室副室長	和 田 芳 弘 (わだ よしひろ)	
		コーディネータ	大 泉 賢 吾 (おおいずみ けんご)	
		博士課程後期	加 藤 愛 (かとう あい)	
		博士課程後期	細 川 富 美 子 (ほそかわ ふみこ)	
		博士課程前期	曾 我 部 知 史 (そかべ ともちか)	
		博士課程前期	三 木 香 織 (みき かおり)	
		博士課程前期	高 橋 穂 (たかはし むのり)	
		博士課程前期	三 谷 友 紀 (みたに ゆき)	
		博士課程前期	萩 原 友 圭 子 (はぎわら ゆかこ)	
	生物生産学部	博 士 課 程 前 期	西 元 信 人 (にしもと のぶと)	
		学 部 生	黒 木 大 揮 (くろき だいき)	
		学 部 生	林 雄 大 (はやし ゆうだい)	

宮城県議会来訪の目的

県議

- 産学官公の連携が弱い部分がある
- 地方の所得向上に努めたい(中小企業も含め)

宮城県登米市の例

県議

- 平成の大合併で約8万人
- 和牛の生産(北海道・九州を除き第一位)
- 圃場整備率は非常に高いが、なかなか就農に結びついていない
- 広島大学がこのような中山間地域・島しょ部連携を行っていることに驚いている
- 大学から地域に根付かせる取り組みがまだまだ今の日本(大学教育)では難しいと感じている

地域が大学との連携に関心を抱くのは？

- 広島大学連携市町の意見

安芸太田町

井仁という地域に7年前から生物生産学部と連携している。7年間の連携の成果として、井仁の景観の維持に役立っている

50戸程度の地域であるが、外部人材の力でモチベーションが上がっている

世羅町

包括契約を結んでいて連携を行っている。去年は、地元高校とコラボして「世羅の日本一を探す」という企画を行った。地元の学生が興味を持つ機会につながった。

また農業面でも連携をしている。(特産:梨)

地域が大学との連携に関心を抱くのは？

県議

・大学の教育のあるべき姿

すぐに結果を出すことが求められるものではなく、中長期的に結果を出す仕組みが必要

学問的な深みを持った研究を行ってほしい。

日本は知識・技術共に素晴らしいものをもっているこれを生かす
すべを考えてほしい

• 震災の影響から

多くの住民が、地域から去っていく中、若く積極的な人が残りがんばっている。地元の大学にも、COC事業のようなことをやってほしい

・大学と地域の関わりについて

短期的に、若い人が来ることで地域が元気になる

長期的に、知識や就業することで地域が活性化していく

単発で終わってしまうことが地域としては残念。

・長いつながりがあることで、そこに定住する学生が出ることもあり、
100人に一人でも残ってくれることは成功である

地域が大学との連携に関心を抱くのは？

県議

- なかなか負の意見を言いにくい
伝統を残していくことを重視するが、それだけではなく時には、それを壊すという意見も言ってほしい
- サイドの違い・レベルの違い・タイムの違いを認識する必要がある。
- 最終的には、皆が幸せになることを考えて実践してほしい
- インターンシップの要望が多い
- いろいろな知識を持った学生がいるほど地域に貢献できる
- 農業だけでなく商業(中小企業)への支援も考えてほしい

大学が地域との連携に関心を抱くのは

学生・教員

- 井仁には4年前から通っている。未熟な学生を受け入れてもらいそれが、地域のためになるという実感ができる。
地域と2人三脚で歩んでいける。
- 大学で学んだ研究知識を地域側の課題解決に結び付けていきたい。植物が持つ機能性などをいっしょにPRしていきたい。
- 地域貢献型の研究: 様々な知識を用いて貢献したい
- 規模が大きい大学ほど地域外から来る学生が多いため、自分が住んでいる地域に興味を持ち、それを知ってこそグローバルで活躍できる人材が育つ。またその中で、地方の一大学である広島大学として、地元に残る人材も確保していく必要がある。
地方には、このような人材の循環が必要である。
全学部横ぐしを通し、地域貢献をしていくことが重要。
現在はモデルケースとして行っている

企業と大学・地域との連携

企業：サタケ

- 企業に勤め、その課題が明確になって大学に入学することで、会社のためになり、また自らも楽しく勉強できている。
- 農業と企業の違いが勉強になっている。営利を目的にするだけでなく、地域・資源等のことを考えてやる部分に違いがある。
- 継続的に続いていけるパートナーを持つことは、若い人の意見や専門家の意見を引き出すことで、企業活動だけでなく社会問題の解決にもつながる